

## 「あきらめる」ということ

心理学助教授 佐方 哲彦

♪ あなたの夢をあきらめないで… ♪

確かこんな歌詞を耳にしたような気がする。曲全体の内容についての記憶はないが、この部分だけはなぜかよく覚えている。自分の夢の実現に向かって頑張っているあなたが好きなよというメッセージだったのだろうか。なんとなく、大切な人から心を込めて言われたいようなフレーズではある。おとなになるにつれて、われわれは子どものときの純な気持ちの夢を、一つずつあきらめていかざるをえなくなる。でも、いつまでもそれらを大切に持ち続けることにロマンを感じてしまうし、それはすばらしいことなのではないともなってくる。はたしてそうなのだろうか。

「あきらめる」というのは、簡単そうでむつかしい。あきらめなければ、自分の大事な夢をなくすつらさやかなしみと出会うことなく、いつまでも幻想を追い続けることができるからである。したがって、「あきらめる」ということは、そうなりえたかもしれないすばらしい自分を、かなしみながらもこころの中から手放すという内的な作業なのである。そのためには、しっかりと現実に向かい合わねばならない。「あきらめる」は、もともと「明ら見る」であり「明らむ」である。明らかに見究めて、ものごとをはっきりさせていくことを、「あきらめる」といったのである。この夢は現実的に考えて自分には無理だとはっきりわかることで、そしてそのときのダメな自分を知るつらさを自らがしっかりと受け止めることで、初めて「あきらめる」ことができる。それは結構むつかしいことなのである。

このごろ、妙にあきらめがよすぎたり、変にあきらめのわるい人たちが多くなったように感じる。ともにあきらめることが下手な人たちであり、自分と真摯に向き合うことを避けようとしている人たちでもある（私もその一人かもしれないが…）。しかし、そうしている限り幻想性の中であがくだけで、ほんとうの夢は決して実現しない。あきらめることができる人だけが、「あなたの夢をあきらめないで…」のメッセージにあるロマンチズムをほんとうにわかるのかもしれない。

君たちが、大学生活を通じて少しずつ「あきらめる」ことの意味を噛みしめながら、おとなになっていくことを期待したいと思う。